

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

2020 年 10 月 26 日

兵庫県知事 殿

提出者

住所 東京都中央区東日本橋3-6-11
日本橋橋ビル6F

氏名 日清ヨーク株式会社 関西工場
工場長代理 山田文彦

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 03-5695-6461

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	日清ヨーク株式会社 関西工場
事業場の所在地	兵庫県西脇市鹿野町124-5
計画期間	2020年4月1日から2021年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	0914 乳製品製造業
②事業の規模	製造品出荷額 6246百万円
③従業員数	44人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項	
(管理体制図) 関西工場 工場長 ↓ 設備原動課 マネージャー	→ 行政への報告・廃棄物契約 各部署への報告

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項		
①現状	【前年度（平成 31 年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	排出量	t
	(これまでに実施した取組) 有価売却による廃棄物発生量の削減。 有価売却はダンボール等の古紙、褐色ガラス、廃油、廃プラスチック、金属、アルミくず、脱脂粉乳の計7項目で実施。 産業廃棄物の排出量を、生産量の原単位あたり1%削減を目標として実施。 不適合が産業廃棄物の発生に大きく影響することについて社内の各部署に周知し、教育訓練を実施。 分別の意識向上、有価物としての処理に向けての取り組み。	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	排出量	t
	(今後実施する予定の取組) 原材料の選定においても、循環利用可能なものを使用するなど、 廃棄物の抑制につながるものを検討していく。	

産業廃棄物の分別に関する事項	
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃棄製品を、自社にて廃酸と包装容器に分け、包装容器は廃プラスチックや有価物に分別している。 金属品などは出来る限り細かく分類し、有価物にて売却するようにしている。 保管場所の分けを表示し、産業廃棄物と有価物をわかりやすく分類するなど、廃棄物の運搬分別を明確にしている。 よりよい分別に向けての保管場所や方法の改善を実施する。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) プラスチックや金属などの混合物を、有価物として再利用できるような分別リサイクルに向けた取り組み、新規業者の開拓や既存業者との更なる取り組みを図る。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（平成 31 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	
	（これまでに実施した取組） 特になし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	
	（今後実施する予定の取組） 特になし		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（平成 31 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
（今後実施する予定の取組） 引き続き、余剰汚泥の脱水処理を実施する。 引く続き、理想的な運用に向けての適切な排水処理施設の運用管理を目指す。			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（平成 31 年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t
	(これまでに実施した取組) 特になし	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t
	(今後実施する予定の取組) 特になし	

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（平成 31 年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	全処理委託量	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t
	再生利用業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t
(これまでに実施した取組) 廃棄物リサイクルの推進 廃酸 → 飼料化・肥料化 汚泥 → 堆肥化 廃プラスチック類 → RPFによるリサイクル ガラスくず → リサイクルビンへ 委託先の現地確認		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量		t
	優良認定処理業者への 処理委託量		t
	再生利用業者への 処理委託量		t
	認定熱回収業者への 処理委託量		t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量		t
(今後実施する予定の取組) 廃棄物リサイクルの推進 リサイクル率100%へ向けての取り組み 引き続き委託先の現地確認を行い、安心安全な処理活動に向けて委託業者と連携・協力する。 新たに選定業者の現地確認を行うなど、産業廃棄物の適正な処理に向けて積極的に活動を進めていく。			

(第6面)

備考

1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。

2 当該年度の6月30日までに提出すること。

3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。

(1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。

(2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。

(3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。

4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。

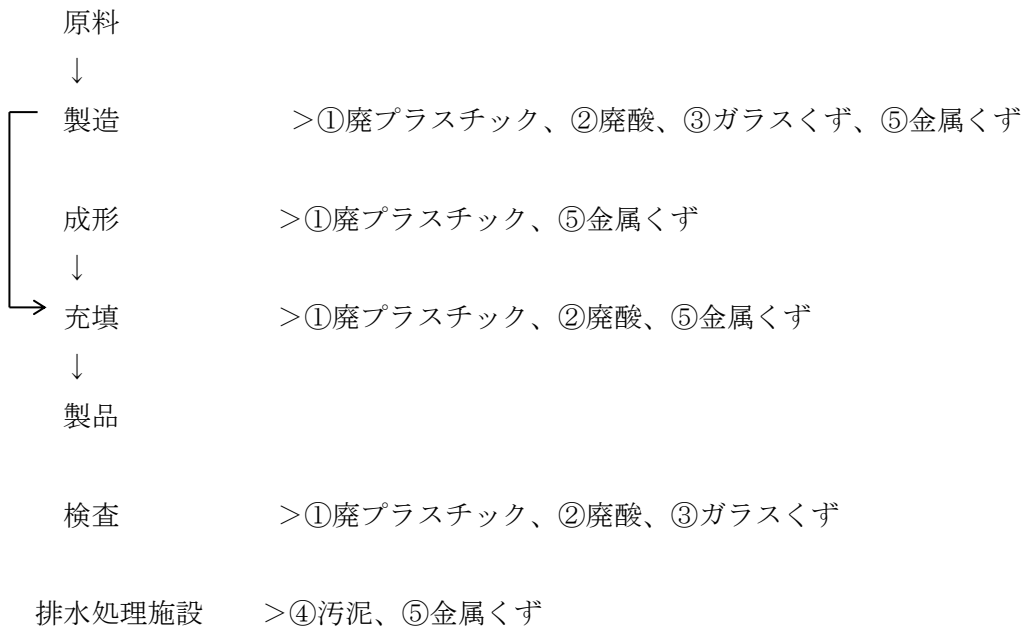
5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。

6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。

7 ※欄は記入しないこと。

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

○産業廃棄物の一連の処理工程



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

○現状 前年度（平成31年度）実績

産業廃棄物の種類	600	400	1300	200	1200
	廃プラスチック類	廃酸	ガラスくず	汚泥	金属くず
排出量	24.37t	258.29t	0.18t	2534t	0.97
生産量	37,325t				
原単位	0.000653t/t	0.006920t/t	0.00000482t/t	0.067890t/t	0.00002598t/t

○計画 目標

産業廃棄物の種類	600	400	1300	200	1200
	廃プラスチック類	廃酸	ガラスくず	汚泥	金属くず
排出量	24.34t	257.94t	0.18t	2,531t	0.97t
生産量	37,651t				

計画 目標の排出量は前年度の原単位を1%削減し今年度の生産予定量にて算出したものです

廃プラスチック類 $0.000653t/t \times 0.99 \times 37,651t = 24.34t$

廃酸 $0.006920t/t \times 0.99 \times 37,651t = 257.94t$

ガラスくず $0.00000482t/t \times 0.99 \times 37,651t = 0.18t$

汚泥 $0.067890t/t \times 0.99 \times 37,651t = 2,531t$

金属くず $0.00002598t/t \times 0.99 \times 37,651t = 0.97t$

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

○現状 前年度（平成31年度）実績

産業廃棄物の種類	600 廃プラスチック類	400 廃酸	1300 ガラスくず	200 汚泥	1200 金属くず
排出量	0t	0t	0t	0t	0t

○計画 目標

産業廃棄物の種類	600 廃プラスチック類	400 廃酸	1300 ガラスくず	200 汚泥	1200 金属くず
排出量	0t	0t	0t	0t	0t

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

○現状 前年度（平成31年度）実績

産業廃棄物の種類	600 廃プラスチック類	400 廃酸	1300 ガラスくず	200 汚泥	1200 金属くず
自ら熱回収を行った量	0t	0t	0t	0t	0t
自ら中間処理により減量した量	0t	0t	0t	2,172t	0t

○計画 目標

産業廃棄物の種類	600 廃プラスチック類	400 廃酸	1300 ガラスくず	200 汚泥	1200 金属くず
自ら熱回収を行った量	0t	0t	0t	0t	0t
自ら中間処理により減量した量	0t	0t	0t	2,169t	0t

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

○現状 前年度（平成31年度）実績

産業廃棄物の種類	600 廃プラスチック類	400 廃酸	1300 ガラスくず	200 汚泥	1200 金属くず
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0t	0t	0t	0t	0t

○計画 目標

産業廃棄物の種類	600 廃プラスチック類	400 廃酸	1300 ガラスくず	200 汚泥	1200 金属くず
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0t	0t	0t	0t	0t

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

○現状 前年度（平成31年度）実績

産業廃棄物の種類	600	400	1300	200	1200
	廃プラスチック類	廃酸	ガラスくず	汚泥	金属くず
全処理委託量	24.37t	258.29t	0.18t	361.56t	0.97t
優良認定処理事業者への処理委託量	24.37t	47.57t	0t	0t	0.97t
再生利用業者への処理委託量	24.37t	258.29t	0.18t	361.56t	0.97t
認定熱回収業者への委託処理量	24.37t	0t	0t	0t	0.97t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0t	0t	0t	0t	0t

○計画 目標

産業廃棄物の種類	600	400	1300	200	1200
	廃プラスチック類	廃酸	ガラスくず	汚泥	金属くず
全処理委託量	24.34t	257.94t	0.18t	362t	0.97t
優良認定処理事業者への処理委託量	24.34t	47.5t	0t	0t	0.97t
再生利用業者への処理委託量	24.34t	257.94t	0.18t	362t	0.97t
認定熱回収業者への委託処理量	24.34t	0t	0t	0t	0.97t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0t	0t	0t	0t	0t

以上